

2 道徳教育の充実

(1) 「特別の教科 道徳（道徳科）」の実施に向けて

平成29年度熊本県小学校新学習指導要領改訂の要点

1 道徳科における学習指導要領改訂の要点

- 1 目標の改善
 - (1) 道徳教育の目標と道徳科の目標を統一「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」
 - (2) 道徳科での学習活動を具体化

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

- 2 内容の改善
 - (1) 内容項目の追加
 - ・ 小学校から中学校までの内容の体系性を高める。
 - ・ いじめの問題への対応の充実を図る。
 - この観点から、低学年に3観点、中学年に2観点、高学年に1観点が、新たな内容項目として追加。
 - (2) 情報モラルに関する指導を充実と社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いに留意。

- 3 指導方法の改善
 - (1) 検定教科書の導入
 - ・ 主たる教材として教科用図書を使用。
 - ・ 道徳教育の特性を鑑み、各地域に根ざした地域教材等の活用も可。
 - (2) 指導方法

道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には、多様な方法を活用して授業を構想することが大切。

ア 問題解決的な学習の工夫
 イ 道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫
 ウ 特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫

※上記ア～ウは、手段であって、目的ではないことに留意

- 4 評価の改善

児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める必要がある。

→ 道徳科の学習活動に着目する。
 <学習活動に着目した評価の視点>
 ◇ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
 ◇ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

2 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

道徳教育・道徳科で育成することを指す資質・能力
 ◇ 道徳教育及び道徳科の目標に示されている「道徳性」

道徳性を養うために行う道徳科における学習



道徳科における「見方・考え方」

様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること。

「考え、議論する道徳」の実現

道徳的な問題を自分事として捉え、議論し、探究する過程を重視し、道徳的価値に関わる自分の考え、感じ方をより深めるための多様な指導方法を工夫すること。深い学びにつながる指導方法としては、例えば以下のよう工夫が考えられる。

- ① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
 - ② 問題解決的な学習
 - ③ 道徳的行為に関する体験的な学習
- ※道徳科における具体的な学習プロセスは限りなく存在。教員一人一人が、児童の発達段階や発達特性、指導内容などに応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら工夫して実践できるようにすることが重要。

3 参考となる資料等

「道徳教育アーカイブ」の設置(文部科学省)H29.5.31
 ～「考え、議論する道徳」への転換に向けた取組を支援～
 <アーカイブの内容>

- ① 授業映像資料: 授業づくりの参考となる工夫のポイントを紹介
- ② 指導上の工夫事例(指導案)
- ③ いじめ防止を扱う実践事例
- ④ 先生用資料(授業づくりのポイント)等

道徳教育アーカイブ

検索

熊本県教育庁教育指導局義務教育課

「道徳教育アーカイブ ～道徳科の全面実施に向けて～」

文部科学省では、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となる映像資料等を提供しています。【<https://doutoku.mext.go.jp/>】

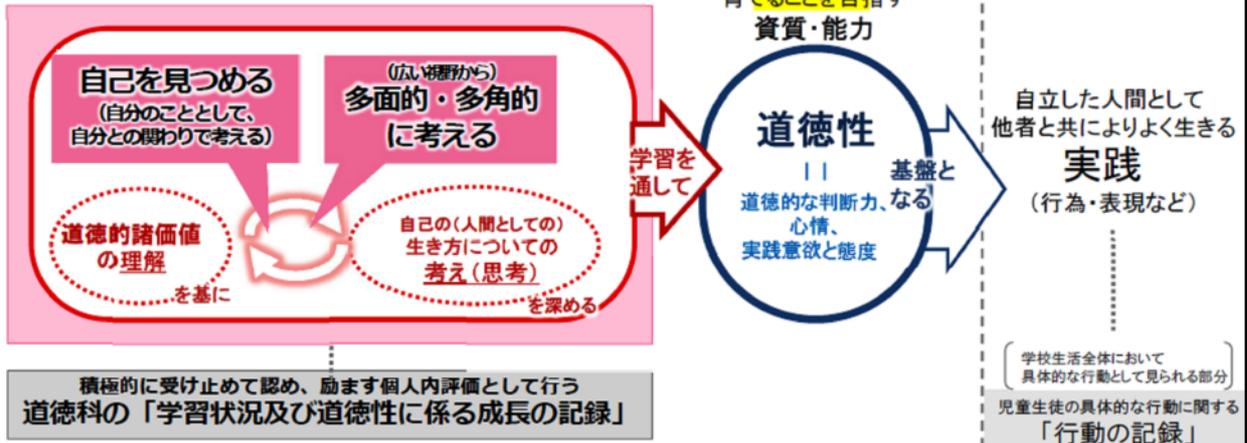
(2) 道徳科の学習活動と評価

○道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく、観点別に分析的に評価(ABCの段階をつける)ことは妥当ではない。

○道徳科の授業では、特定の価値観を児童生徒に押しつけたり、指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え、議論する」ことを通じて、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学習を行うことによって、道徳性を養うことを目指すもの。

→このため、道徳科の学習の中で、特に「自己を見つめ、自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで、道徳科の学習状況を把握することが必要である。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



注)道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり、これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

【道徳科の学習活動と評価のイメージ(道徳教育アーカイブ掲載資料・文部科学省より)】

個人内評価として見取り、記述により表現することの基本的な考え方

小学校・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章第2節(2)より

道徳科において、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかということについては、学校の実態や児童(生徒)の実態に応じて、教師の明確な意図の下、**学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要がある。**

「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている」ことに関する視点の例

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する
- ・自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしていることに着目する
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることに着目する

「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」ことに関する視点の例

- ・教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目したりする
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めていることに着目する
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている事に着目する

【小学校・中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第5章第2節(2)より】